

茨城県畜産センター
令和元年度評価書

令和2年11月
茨城県畜産センター
評価委員会

【様式6】

□総合評価

評価:A(3.2)	試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせ、質・量の両面において概ね順調に取り組みを実施していると判断できる。
<p>試験研究機関として多くの研究プロジェクトを推進し、普及に繋がる成果をあげている点は高く評価できる。また、農家への指導を通じて試験研究の成果を幅広く普及につなげる取り組みにも積極的であり、茨城県の畜産業の更なる発展が期待できる。また、外部、内部の人材育成にも力を入れており、これからの畜産の持続的な発展に欠かせない取り組みを行っている。</p> <p>更に、他機関との連携を強化し、競争的資金の獲得や民間からの資金提供につなげるなど、外部資金の獲得による県費の節約にも貢献している。</p> <p>フェイスブックなどによる情報発信にも積極的に取り組んでいるが、これからも一般消費者に畜産を理解してもらえるような情報のさらなる充実をお願いしたい。</p> <p>改善を要する点としては、数値目標を掲げることは重要ではあるが、質的な向上は数のみでは判断しがたいこともあるので、評価項目や判断基準等についても検討してほしい。</p> <p>また、牛精液の販売本数、農家採卵個数が頭打ちとなっている。県産畜産物のブランド力向上のため、優良な種雄・雌畜の造成に努めるとともに、県内畜産農家への情報提供により販売網を整備するなど、優秀な素畜が迅速に普及するよう努めてもらいたい。</p> <p>「広報・普及啓発」の項目に論文や学会発表等、成果の創出に関する実績が記載されているが、「研究業務」または「成果の普及活用促進」の項目で評価すべき。今年度は論文・学会発表ともに目標値に達しておらず、やや取り組みが不十分だったと思われる。</p> <p>「内部人材育成」の項目については、回数は目標を大幅に上回っているが、質を評価する意味でも研修の効果についても記述すべきである。</p> <p>県民(企業・農業者等)ニーズの把握に努力されていることがわかるが、出された要望等が「畜産センターとしてどのように受け止められ、どのように反映されているのか」が見えると、多くの消費者・生産者にとってより身近な存在になると思う。</p> <p>生産者等のニーズをきちんと把握して試験研究に生かすことと、種畜等の安定供給に力をいれらると共に、家畜伝染病対策の徹底、強化をお願いする。</p> <p>畜産センターに期待される、役割や達成すべき目標に照らして、概ね順調に成果を上げていると評価する。 (A:3.2)</p>	

□項目別評価

i) 県民に対して提供する業務

1) 試験研究

評価: A

<p>①黒毛和種性選別精液を用いた体内胚採取における受精率向上方法の検討 正常卵率の向上という課題は残るものの、市販器具を用いた技術改善で効果が期待できる。今後は受精卵の質の向上についての成果に期待したい。本研究で用いた深部注入器は既に市販されている物なので、機器開発としての新規性はないが、性選別精液使用時の深部注入器の優位性を実証した成果であり、現場で注入器を選択する際の参考となる。汎用性の高い成果であることから、是非論文化して受精卵移植に携わる多くの技術者がデータを共有できるようにしてもらいたい。多くの畜産農家に普及されていくことを期待するとともに、ホルスタイン等の人工授精への活用も検証してほしい。</p> <p>②豚舎排水の窒素除去並びにリン回収・利用に関する研究 除去・回収技術を組み合わせた浄化システムの効果及び、MAPのリンの代替肥料としての活用が証明されたものと評価する。曝気による反応槽のpH調整やMAP回収部材の検討も行っており、既存施設を生かして速やかな実装ができる。部材に付着したMAPの回収法が改善されれば、より普及可能性が増すと思われる。Anammox菌については菌の増殖や維持に課題が残るので、継続した試験研究が必要であるが、応用できる場所から現場への展開を図っていただきたい。また、マニュアル化やQ&Aをまとめるなど、普及のための広報に努めてもらいたい。コストが普及の鍵となることから、活用したときのメリットに加え、規模や主な処理方式ごとに導入と維持に必要なコストも示すことができるようにしてもらいたい。実用化を期待する。</p> <p>③家畜ふん堆肥の燃料化による環境負荷低減技術の開発 適切な燃焼材を用いることにより豚糞堆肥を焼却して現物量を大幅に削減できること、さらにはその燃焼灰がリン酸源として肥料利用できることを明らかにした。導入コストが高いことが課題であると同時に廃熱の有効活用が望まれるが、これらを克服できれば普及可能性は高まると思われる。導入が進むように働きかけてほしい。 また、堆肥のペレット化や木質チップとのペレット化など、堆肥の燃料化への取り組みの継続をお願いする。</p> <p>④夏季における暖地型牧草利用による放牧実証試験 夏季に暖地型牧草を利用することにより、寒地型牧草の夏枯れによる収量低下の問題を解決できる可能性を示すとともに、作業軽減等、飼養者の負担軽減も期待できる。一方で蹄耕法による出芽が認められなかったことは、山間地での利用の制限要因となりうるので、種子量を増やす以外の方策についても検討してほしい。また、実際に利用される環境に合わせて、暖地型牧草と寒地型牧草とを組み合わせた実証試験に取り組み、周年放牧技術をさらに高度化、体系化してもらいたい。周年放牧技術のマニュアル作成と実証展示をお願いする。</p>

2) 相談業務・依頼分析

評価: A

<p>畜産農家等からの相談などに適切に対応してきたと判断される。技術相談の回数は目標を上回っており、主な相談内容からも畜産農家や技術者、また県内企業等の相談窓口として堅実な信頼を得ていることが窺える。しかしながら、依頼分析については、件数、特に自給飼料の分析件数が少なく、目標値が必要に見合っていない可能性がある。依頼に基づく業務に数値目標を入れることの妥当性については今後検討が必要であると思われる。</p>

3) 指導業務

評価: AA

試験研究に基づく成果を中心に、積極的な技術指導や情報提供を行っており、目標を大きく上回っている。このような取り組みを通じて、試験研究成果、指導成果の普及を目指してほしい。

4) 施設・設備利用

評価: A

防疫面で難しいところもあるが、非常によく対応していると判断される。積極利用を働き掛けることは大切だが、分析機器の提供については、件数が少なく、目標値が需要に見合っていない可能性がある。件数が少なかった理由も記述してほしい。

5) 成果の普及活用促進

評価: A

関係機関と連携したチームにより試験研究の成果の普及に努めていると判断されるが、(3)の指導業務との違い等を明確に示してほしい。普及に移す成果の創出は畜産センターの最も重要な任務であり、目標値の1件に対して3件あげた点は高く評価できる。今後は普及状況についても検証することが必要と思われる。

6) 外部人材育成、教育活動への協力

評価: AA

限られたスタッフにもかかわらず、外部人材育成や消費者教育にも積極的に係わっていると判断される。家畜人工授精講習会や繁殖和牛入門講座の開催、共進会・共励会等の審査、インターシップや畜産教育支援、加工体験の受け入れ等、多くの項目で目標を上回り、加工体験者の理解・満足度評価も満点である。外部及び内部人材の育成に積極的に努め、かつ受講者の理解が得られている点は高く評価できる。

7) 知的財産権の取得・活用及び優良遺伝資源の供給

評価: A

種雄牛の世代交代により精液供給本数と農家繋養牛からの受精卵採取個数が減少してきているが、多くの項目で目標を達成しており、県内畜産業の発展に充分貢献していると判断される。その一方で掲げていた数値目標を達成できなかった項目については、目標設定が適切であったかについてもご検討いただきたい。優良種雄牛を作出するだけでなく、畜産農家に使ってもらえるよう情報提供の手段についても工夫していく必要がある。また、今後は生産子牛数等の供給成果も報告してほしい。

8) 広報・普及啓発

評価: A

広報にフェイスブックを活用し、県内広報誌への寄稿が目標を大幅に上回るなど、一般向けの広報活動は充実していると判断されるが、成果の創出については、研究機関として最も重要な活動である査読付き論文発表や学会発表などの学術的情報発信については目標を下回っており、質の面ではやや不十分と判断され課題が残る。基礎的な研究にも多く取り組んでいるので、それらの成果を発信できるような組織的な支援を検討してほしい。

ii) 業務の質的向上、効率化のために実施する方策

1) 全体マネジメント

評価: A

3機関が連携して試験研究等の推進が図られていると判断されるが、さらなる試験研究の進捗管理の徹底が望まれる。

2) 県民(企業、農業者等)ニーズの把握

評価: A

関係者等からの要望等の把握に努めてきたことは理解できるが、事前評価調書等においてそれがどこからのニーズなのかまたどのように試験研究等に生かしているかについても示してほしい。消費者ニーズについては、公開デー等を活用してその把握に努めており評価できる。これらにより得られたニーズが今後の研究計画の立案に反映されることを期待する。

3) 他機関との連携

評価: AA

限られたスタッフにもかかわらず、多くの共同研究が推進され、他機関との連携が強化されていると判断される。特に、質的な面として、大学、国研、民間との共同研究の件数が増えていることは、今後の外部資金獲得と成果の創出を期待させる。

4) 外部資金の獲得方針

評価: A

国、団体、企業などの外部資金の獲得にも積極的に取り組んでいると判断される。外部資金による研究では成果も求められるので、関係機関と一層密に連携して研究を推進してほしい。今後は代表として大型の競争的資金が獲得できるよう引き続き外部資金獲得に努めてほしい。

5) 内部人材育成

評価: AA

様々な研修会への参加人数や所内研修の開催など計画を上回って実施されており、研究員の研修の機会を増やしていることは理解できるが、示された数字からではどのような効果が得られたのかが判断できない。研修の回数に加え、資格を取得した、分析の精度が向上した、新たな成果が創出されたなど、人材育成の効果についても説明があると評価値の納得感が高まるのではないかと。